

平成28年度 U-32 Young Officials' Camp 2016 参加報告書

1. 日程:平成29年1月7(土)～平成29年1月9日(月・祝)
2. 場所:国立代々木競技場第一体育館・会議室
3. 主催:公益財団法人 日本バスケットボール協会
4. 講師:阿部哲也氏、宇田川貴生氏、片寄達氏、平育雄氏、安西郷史氏
JBA:上田篤拓氏、岩田千奈美氏、高森英樹氏
5. 受講生:JBA推薦者(男女トップリーグ担当者の中で、32歳以下の者)、ブロック推薦者(各ブロックから推薦を受けた32歳以下の者)、計30名(男性23名、女性7名、平均年齢29歳)
6. スケジュール・研修内容

○1月7日(土)

時間	研修名及び講師
13:30～14:00	開講式 挨拶(公益財団法人 日本バスケットボール協会 審判部長 阿部哲也氏) 早期育成について(平育雄氏)
14:00～14:40	講義① 「ガイドライン」解説(宇田川貴生氏、安西郷史氏)
15:00～17:00	観戦① 女子準決勝(JX-ENEOS VSトヨタ自動車)
17:00～17:30	研修① 女子準決勝のゲームのディスカッション(宇田川貴生氏)
17:30～19:00	講義② 3PO メカニクスについて(上田篤拓氏)

1日目 所感

最初に、平氏よりこの研修の二つの目的をお話し頂いた。目的の一つは早い段階から国際審判員へのモチベーションを高めること。もう一つは、国内トップレベルのゲームや審判や分析等に触れる機会を持つことである。また、昨年度までの早期育成プロジェクトとの違いが確認され、今回は国内 Top-game に対するガイドラインの適用のされ方、メカニクスや判定、映像分析等を知ることが大きな目的であると確認された。

最初の講義である「ガイドライン」の説明では、JBA から出されたガイドラインを一つずつ、講師の宇田川氏より説明があった。私自身 B3リーグを担当するにあたり、ガイドラインは以前から配付されており、何度も目を通してきていたつもりであったが認識の甘さを実感した。特に基本的な考え方の部分のプレイヤーの FOM(Free of Movement)を確保するという点への認識の甘さを感じ、ファウルを取り上げる際に根拠をきちんと持つことや、ルールブックに照らし合わせ、いつでも説明できるようにしておくことの必要性を感じた。シリンダーやリーガル・ガーディング・ポジション、オフェンスの RSBQ など改めて、捉えなおす機会となった。その点を意識して、女子準決勝を観戦してみると、いつもとは違う見え方で試合を観戦することができた。シリンダーから出た手の接触や、どちらが先に位置を占めていたのか、アクションに対するリアクションの判定など多くのことを学び取ることができた。

ディスカッション後の講義では、3PO メカニクスについての話があった。ベーシックの位置取りを細かく丁寧に教えていただき、とても分かりやすく理解することができた。3PO ではそれぞれの視野取り、アングルを大切にしていこうと、1つの目的に同じ考えをもって動けるようになることが大切であると分かった。

○1月8日(日)

時間	研修名及び講師
9:15～11:15	聴講① FADP 国際審判研修講義聴講 「リオ・オリンピックについて、国内と国際試合における判定の違いについて 等」 橋本信雄氏 FIBA コミッショナー/FIBA-ASIA レフリースーパーバイザー 内海知秀氏 女子日本代表ヘッドコーチ

12:00～14:00	観戦② 男子準決勝(川崎ブレブサンダース VS アルバルク東京)
15:00～17:00	研修②・講義③ 男子準決勝のゲームのディスカッション及び映像を用いての講義 (片寄達氏、上田篤拓氏、準決勝担当審判員(宇田川貴生氏、北沢岳夫氏、加藤誉樹氏))
17:00～19:00	観戦③ 女子決勝(JX-ENEOS VS 富士通)

2日目 所感

午前は国際審判員の研修会を聴講させていただいた。女子の日本代表ヘッドコーチである内海氏の話はとても引き込まれるものがあった。オリンピックに向けて長い期間の準備の中で、大切にされてきたことが垣間見られ、とても貴重な経験となった。特に、国際試合で吹かれるトラベリングやイーガルスグリーンについての話は、映像も交えながらの説明で非常に分かりやすかった。ダブルチームやリバウンドにからむプレイヤーの手の使い方に対して、世界ではファウルを取り上げられやすいことや、ボールミートのトラベリングなどは、日ごろ教えているミニバスケットボールにも通じることがあるので、参考になった。

午後の観戦からの研修では、実際に準決勝を担当された審判員を交えての研修となった。そこでは、映像を用いて、ガイドラインの適用のさせ方、3PO メカニクスについての解説があった。記憶だけを頼りにするのではなく、映像という客観的事実を用いて何度も繰り返し同じプレイについて考えていった。今まで漠然と見ていた映像が昨日のガイドラインの話を受けて、ディスカッションしながら見ると、一つ一つのプレイに対する見方が大きく変わったように感じた。また、大きな現象が起きたとき(トラブルを含む)には、常にベーシックにもどることが大切であるという言葉が印象的であった。失敗した後もとにかく吹き続けていくしかない、プレイヤーに集中してもらるようにしていくことが大切なのだと分かった。

○1月9日(月・祝)

時間	研修名及び講師
10:00～11:00	講義④ 映像及び語学学習(上田篤拓氏)
11:00～12:00	講義⑤ 映像及びプレイコーリング(宇田川貴生氏、片寄達氏、上田篤拓氏)
12:00～12:30	閉講式 挨拶(公益財団法人 日本バスケットボール協会 審判部長 阿部哲也氏)
14:00～16:00	観戦④ 男子決勝(川崎ブレブサンダース VS 千葉ジェッツ)

3日目 所感

午前は映像資料を基にその処置について英語で答えるという研修を行った。また、英語での自己紹介を3分間隣のペアと行った。英語に関して、日ごろから数分でもよいので、どう表現していくかを考えることの大切さ、バスケットボールの試合での状況でどうコミュニケーションをとっていくかなど、生きた英語を身に付けていく必要性を痛感した。試合のコートの中ではもちろん、コートの外でもコミュニケーションをとれることが求められているので、その力を伸ばしていきたい。

次の片寄氏の講義では、実際に前節のプレゲームカンファレンスで用いた資料を提示していただき、試合に向けた準備の話をしていただいた。ゲーム運営(マネジメント)とゲーム管理(コントロール)の2つの視点から分かりやすい説明であった。特に、スタッツを活用した各チームのkey-playerの特定やメカニクスの細かい点まで話されていることに驚いた。自分も今後B3を担当する際には、多くのことに準備をして、現場で起きることに向き合っていきたいと強く感じた。

7. 総合所感

今回、U-32 Young Officials' Campに参加させて頂き、本当に多くの方と出会い、たくさん審判についての話をする事ができたことができました。昨年度参加させていただいた早期育成プロジェクトでも同じことを感じましたが、同世代の同じ志をもった仲間と過ごせたことは貴重な経験となりました。また同世代でS級として活躍する人、トップリーグを吹いている人と話をして、より自分自身を高めていきたいという気持ちになりました。もちろん上級のライセンスを取る事だけが目標ではないですが、1日でも早くそのステージに立てるよう日々努力をしなければいけないと感じています。しっかりとした準備を行い、目の前の1試合1試合を無駄にすることなく日々精進してまいります。

最後に、本研修に対してご尽力いただいた日本バスケットボール協会の阿部哲也審判部長をはじめ、講師の先生方、JBA オフィスの方々、推薦していただいた東京都の久保ブロック長に厚く御礼申し上げます。また多くの刺激をもらった受講生の仲間にも感謝しています。次の舞台で活躍出来るように頑張ります。ありがとうございました。 以上